

道徳教育の改善方策について — 大学の教員養成の充実及び教員の指導力向上の観点から —

永田 繁雄（東京学芸大学）

1 教職を目指す大学生の道徳授業に対する意識

東京学芸大学（以下、本学）では、2年生の段階で、教員免許法上の教職課程科目「道徳の指導法」（本学では「道徳教育の研究」）を学ぶことになっている。その授業の最初に、小中学校で学んだ道徳の時間についての印象を受講学生に問うと、およそ次のような傾向が見られる。

(1) 道徳の時間についてのイメージがよくないこと

学生の感想コメント（資料1を参照）の中には、「担任の先生は、他の授業より穏やか」「自分と向き合う時間」「特別な授業の気がしていた」などのプラスのイメージが見られる一方で、「国語との違いがあまり分からなかった」「他の学習に変わりがち」などの全体的な印象のほか、「用意した答えの方向に導かれていただけ」「自分の考えを押しつぶしていた」「『どの意見もいい意見だね』で終わるからつまらない」「正直なところ、時代遅れ」などという感想が並んでいる。

(2) 小学校より中学校の方がマイナスの印象が強まること

本学の本年度前期（春学期）開講の全クラスの受講学生（674名）に、4月当初、小中学校で受けた道徳授業についての印象を問うたところによれば、次の結果（暫定数値）が見られた。

	好きだった	やや 好きだった	ためになった	まあ ためになった
小学校	17.5%	31.3%	13.4%	35.0%
中学校	7.4%	14.4%	7.6%	21.6%

このように、小学校段階では、約半数が肯定的な印象をもつものの、中学校段階ではそれが激減していることが分かる。また、表には示していないが、「覚えていない」と回答する学生も、小学校段階については8.9%であるのに対し、中学校段階は21.1%に上っている。

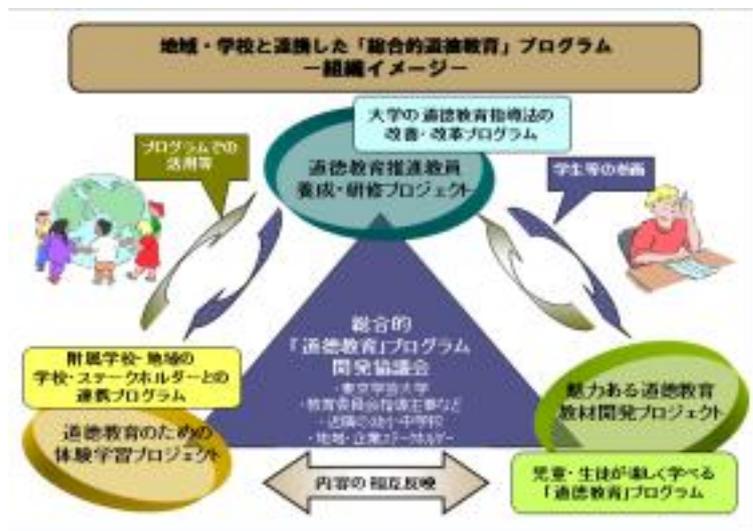
本学の学生は、その多くが教員を目指し、実際に道徳の時間の指導を行うことになる。しかし、このようなイメージのまま教壇に立っても、よい道徳授業のモデルは描くことができない。道徳の時間のプラスイメージをもたせることが、とりわけ重要な課題であることが分かる。

2 本学で取り組んできた道徳教育充実への取組～「総合的道徳教育プログラム」

(1) プログラム実施の概要

本学では、大学を一つの起点とする道徳教育の充実の在り方を追究することを重要なテーマとして、平成21年度より、文部科学省の特別経費による研究「地域・学校と連携した『総合的道徳教育プログラム』の開発」を始め、本年度に至っている。

そこでは、右図に示すように、大きく3つのプロジェクトを設定して具体的な取組を行ってきた（資料2を参照）。その実施の概要は、次のとおりであり、その取組の様子や成果などは、ホームページで発信等をしてきている。



【本学で進める「総合的道德教育プログラム」の具体的な取組】

①第1プロジェクト……道德教育推進教員養成・研修プロジェクト

新しい時代の道德教育を担うための教員養成や現職教員研修のあり方、内容、方法などについて研究を行う。

◇小中学校教員を対象とした道德教育に関する調査の実施

◇小中学校教員対象のセミナーの実施 ◇大学の道德教育の科目に生かす教材の編集

◇大学の科目「道德の指導法」についての全国調査、本学の授業における調査 など

②第2プロジェクト……魅力ある道德教育教材開発プロジェクト

現代の課題に対応した、新しい魅力的な道德教育教材の開発について研究を行う。

◇大学や附属・地域教員などが連携した18のワーキングで教材開発の研究

◇開発教材の汎用化のための工夫や、授業などでの効果の検証 など

③第3プロジェクト……道德教育のための体験学習プロジェクト

豊かな心を育てる様々な体験学習のためのプログラム開発などの研究を行う。

◇近隣3市と連携し、6校の研究協力校を中心に進める体験学習プログラムの研究

◇大学や附属・地域教員などが連携したワーキングで体験学習プログラムの開発 など

(2) プログラム開発への取組による成果の表れ

この中にも示すように、道德の時間のみならず、道德教育全体の充実に資する様々な道德用教材を開発したり、近隣の小中学校と連携して心を育む体験活動の充実のためのプログラムを開発したりしてきた。このことを通して、少しずつではあるが、次の価値ある成果を見出している。

◇例えば、各専門・専攻の視点から道德教育用の教材開発を試みることを通して、道德教育に対する前向きな理解が全学的に広がってきていること。例えば環境教育、国際理解教育、自然科学を専門とする教員なども、教育課題に生かすための教材開発を担っていただいた。

◇家庭・地域や学校等と大学との連携のもとで、社会の中でつながる道德教育のあり方を考究してきたこと。フォーラムの開催などを通して、その課題を共有しつつある。

◇教職課程科目「道德の指導法」の実施基盤をさらに整え、その具体的な充実に図ってきたこと。

◇小中学校の道德の時間を担当する教員のために道德関連の情報を提供するとともに、教員対象のセミナーを継続的に実施して、大学が研修の一つの基点となるように努めてきたこと。

3 教職課程科目「道德の指導法」（本学における「道德教育の研究」）の充実への取組

(1) 教職課程科目「道德の指導法」の全国的な実態の把握

大学における「道德の指導法」の実施実態はどのようなようであろうか。

本学では、平成21年7月から9月にけて全国の教職課程をもつ大学に調査票を送り、「大学・短大における教職科目（道德の指導法）に関する調査」を行った（回答者数：363人）。それによれば、授業を担当する講義者の傾向として次のことが浮かび上がっている。

◇講義者の約7割（263人）は51歳以上、約4割（150人）が61歳以上であること。

◇講義者の専門領域は教育哲学が最も多く（17.1%）、教育学（12.4%）が続き、道德教育を主専門と回答した講義者は10.2%であること。さらに、倫理学、教育史、教育方法、教育心理学がこれに続いている。

◇小・中学校の教職経験を有する講義者は35.0%（127人）であること。

また、授業に際し、学習指導案の作成を授業に取り入れているのは、約3分の2（67.8%）であり、実際の授業参観を取り入れているのは、4.1%に留まっている（資料4及びHPを参照）。

さらに、当該科目を実施する上での課題を聞いたところ、次のような記述が目立っていた。

受講者数が多い	学習指導案の添削枚数が多い	授業時間数が少ない
教育的価値観が大きく影響する	道德の時間のイメージが小学生止まりである	
学生自身がよいサンプルをもっていない	現場の見学をしたいが困難が伴う	など

なお、全国には、効果的な取組を進める多くの大学教員がいる。相互の情報交流を通して、「道

徳の指導法」そのものの授業研究を進めることも重要だと考えた。現在、10ほどの大学の「道徳の指導法」の効果的な実践事例を集約しているところである。

(2)「道徳の指導法」の計画的実施と充実

また、本学では、本プログラムへの取組に併せて、「道徳の指導法」を担当する各教員が、共通の土台に立って授業を実施できることを優先し、そのための教材作りや、授業映像、附属学校を有することの利点の活用などを通して、その充実に努めた。

それにより、授業のシラバスを共通理解して設定し、それをもとに15回の授業を展開した（資料4の「参考」は、前年度後期に実施した授業内容に基づいて整理したものである）。

さらに、授業用の共通資料として冊子『教職資料・新しい道徳教育』を作成し、改訂も経て、現在、主たる授業用教材としてレジュメや各種資料とともに併用している。もとより冊子の内容は学び切れない量であり、学生が自学する際にも生かすことができるものとして位置付けている。

この実施の中で、15回の前半の主として理論的・基盤的な内容、後半の主として実際の・実践的な内容のどちらかに比重をかけようとすると、時間幅の確保が難しくなるなど、時間的な制約は大きな課題である。また、本学では附属校の授業観察や近隣校の教員の招聘を行うこともあるが、授業観察を講義時間に組み込む難しさもあり、講義に用いるビデオの開発にも努めている。

4 教員の道徳教育研修の一つの拠点とするための試み

(1) 学校の道徳の時間の実施実態の把握と情報の提供

道徳の時間の実施の実態を少しでも明らかにするために、本プログラムでは、平成23年度に全国の一般校及び道徳教育指定校の教員を対象に、「道徳教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査」を実施した。その結果の詳細は別途に譲るが、一般の小学校教員（ $n=1360$ ）及び中学校教員（ $n=1262$ ）の道徳の時間の実施状況に対する受け止めは、「十分に行われていると思う」との回答が小学校33.6%、中学校25.0%であるのに対し、「十分には行われていないと思う」は小学校66.2%、中学校74.8%に上った。その上で「十分には行われていないと考える理由」を問うたところ、9項目の3つまでの複数回答で尋ねた結果の上位6つは、次のとおりであった。

	<小学校>	<中学校>
・道徳の時間の目標や意義が十分に理解されていない	12.9%	18.5%
・忙しくて他の指導に時間をとられがちである	50.1%	49.8%
・どのように役立っているのか分からない	17.9%	17.0%
・魅力ある資料や教材が少ない	11.5%	15.8%
・指導の仕方が難しい	25.4%	40.0%
・指導が形式化するなどして魅力がない	14.1%	18.7%

また、同調査には人気のある道徳資料のランキングも掲載しており、関心もたれている。

さらにホームページ上には、全国版の道徳用副読本に取り上げられている資料の検索システムも用意した。例えば、「手品師」という資料がどの副読本会社の冊子に掲載されているか、などについて検索できるようになっており、アクセス数も多い。

遅々とした取組ではあるが、これらが道徳教育の充実の微力の一つにもなればと考えている。

(2) 学校教員対象セミナーの計画的な実施

詳細は別に譲るが、本プログラムでは、小中学校教員が特に現職研修を重ねる夏期休業期の8月に、道徳授業セミナーを開催しており、当日は道徳授業作りに課題や関心をもつ多数の教員が本学に訪れる。本年度の8月にも第4回の開催を予定している。大学の社会的責任を果たすための試みの一つでもあるが、道徳の時間充実のための研修の場が強く求められていることを感じさせられる。内容を検討し、よりよい研修の機会となるように努めなくてはならないと考えている。

5 今後の道徳教育の充実に関する議論に期待したいこと（私的な見解を含めて）

道徳の時間の「教科化」にかかわっては、複数の調査が見られる。それによれば、国民の世論は賛成の傾向が強い。読売新聞による調査（平成25年4月18日報道）では、賛成が84%、反対が10%となっている。しかし、教育関係者が多く加わっていると想像される明治図書のWeb上での調査（教育Zine/Eduアンケート・平成25年3～4月実施）によれば、賛成が21.8%、反対が76.5%となっており、前者の調査とちょうど逆の結果となっている。これは、道徳の時間にもつイメージやそこで

の期待の違いなどにその理由があると想像されるが、この意識の差を埋める努力が重要になる。

そこで、今までの試みを踏まえ、道徳教育及び要としての道徳の時間の充実に向けて考えたいこととして（私的な見解となるが）、主に次の諸点を挙げておきたい。

(1) 特質を踏まえた多様な授業観を切磋琢磨し合い、しなやかな道徳授業を生み出していく

道徳の時間の指導がやや硬直化しているとの声も聞かれる。もちろん、道徳の時間らしさとしての特質を踏まえる努力は怠ってはならないが、授業の活力は多様さを発想するところから生まれる。多様な試みを交え議論することで、特設以来55年を経た今の時代に生かされるしなやかな道徳授業を創り出していくことができる。

なかでも、小学校上学年や中学生になれば、「学習指導要領解説・道徳編」の「言語活動の充実」の項でも示されるように、「討論や討議」や「共同的に議論」する活動、いわばディスカッション型の道徳授業にも今まで以上に心を向けてみるのが重要ではないか。このことは、平成10年の中央教育審議会のいわゆる「心の教育」の答申の中でも既に強調されていたことである。

本当の自尊心は、児童生徒が健全な自己主張をできることでもある。しかし、我が国の子供は他国に比べて孤独感を強く感じ、意見の主張も苦手だと言われる。児童生徒は発達とともに思考力も主張力も高まるのに、授業は逆に静かになっていくという問題を克服しなくてはならない。

(2) 小学校と中学校の実態の違いを踏まえて、発達段階に即した授業へと差別化を図る

いま一つ大きな課題は、学年・学校段階が上がるとともに道徳の時間が嫌いになっていくことである。しかも他の教科等と比べてもかなり低い方である。中学校も上学年になれば発達的には思春期後期に入り始める。小学校と中学校の接続は大切にしながらも、以前、「教育改革国民会議」が、小学校は「道徳」、中学校に「人間科」と提言したように、例えば中学校段階は、生命倫理、環境倫理、情報倫理などの教育課題に応じた内容も積極的に生かすなど、学習内容や方法のタイプについて差別化を図っていくことも選択肢の一つではないかと感じている。

(3) 道徳用教材の選択的な環境を充実させる

現在、私が教える大学生は、小学校中学年の頃から「心のノート」を手に入れている。しかし、その印象には大きなバラツキがある。ある学生が、道徳用副読本についての受け止めも含めて次のようなコメントを授業に際して書き残していた。

道徳用教材が安定して、しかも選択的に使える環境がなければ、道徳授業の充実はあり得ない。その意味

私が小学生のときは、心のノートは先生が管理していました。教科書は渡されるのに、どうして先生が管理するのか、その頃はとても不思議でした。また、道徳の話がたくさん載っている教科書に似た本も先生が管理しており、次の学年に使い回すから絶対に書き込まないように言われていました。授業では、この2冊の本を使うこと自体少なく、小学校は2回転校しましたが、どの学校もそうでした。道徳教育が上手いかないのは、このような生かし方の問題も非常に大きいと思いました。(S.T)

からも、資料のスタイルの多様さを認めつつ、地域教材などと併存させながら活用できる環境を整備することがとりわけ大切になる。

(4) 大学の教職課程における道徳教育関連科目の具体的な充実を図る

大学の教員養成における道徳教育関連科目の具体的な充実を図ることも重要だと考える。その際重要なのは、指導する教員の専門性と実践性の一層の確保（担保）である。また、取組を踏まえた印象としても、現状の授業時間幅では十分ではないのではないかと改めて感じている。

(5) 道徳教育の一体的な推進を図るための人的な確保を強化する

現行の学習指導要領に「道徳教育推進教師」が位置付けられたのは、画期的なことだと感じている。道徳教育も、その要としての道徳の時間も、学校が一体となって学校カリキュラムとして推進していくことの重要性が一層明確になったからである。

しかし、調査によれば、「道徳教育推進教師」が導入された後も、その効果は必ずしも十分には表れていないとされる（日本教育新聞社による調査、平成25年5月6・13日号掲載）。その意義を押さえ一層有効なものとするためにも、協力体制の要としての人材の実質的な確保のための措置が重要になると考えている。

小・中学校で受けた道徳の時間について（学生の感想コメントより）

東京学芸大学「道徳教育の研究（道徳の指導法）」の受講学生（主として大学2年）の感想の実際から
 【平成24年度後期（秋学期）の授業時の感想を中心に、特徴的なものを整理。各感想を要約した。】

■ 授業についての全体的な印象

- 国語との違いがわからなかった
 - ・国語の授業との違いがあまり分からなかった。物語文の読み取りと何が違うのだろうと思っていた。
 - ・国語に似ていたが、国語よりも難しくなく、興味があったので楽しかった。
- 答えを探すのが難しいが楽しかった
 - ・きれいごともあったが、答えが示されず、自分たちの中から答えを探す作業は面白かった。
 - ・どちらが正しいということではなく、答えは自分自身で考えるしかないので消化不良のときもあった。
- 先生によって取り組み方が違った
 - ・先生によって取り組み方が全く違っていった。隣の組の先生のやることが斬新で、羨ましかった。
 - ・好きな学習だったが、人格的に尊敬できない教師に授業されるのが不快だった。
 - ・担任の先生も、イマイチ何をしようか分からない様子で混乱していることが多かった気がする。
- 他の学習に変わりがちな時間だった
 - ・運動会や合唱祭練習に充てられた。 ・総合と連動して1/2成人式をしたり自分史を作ったりした。
 - ・学級の決めごとやリクレーションにあてられることが多かった。 ・中学校の道徳の授業はなかった。
- テレビが楽しかった
 - ・テレビを見ることが楽しかった。 ・小学校はNHK教育などのTVを見ていた。
 - ・NHK番組が楽しかった。 ・テレビ番組をよく見た。お話から学ぶよりいいと感じた。
- そのほか
 - ・短編集のような本を見ていることが多く、先生の話は聞かず、他の話を読むことに夢中になっていた。
 - ・挙手して発言すると「まじめ」「いい子」と思われそうで、発言しにくかった。 ほか

■ 受けたときのプラスの印象など

- 温かく穏やかな気持ちになれる
 - ・担任の先生は、他の授業より穏やかで、お父さんやお母さんのように思えるときがあった。
 - ・話をもとにみんなで真剣に考えた。授業が終わると心がきちんと整理され、ほっこり、すっきりした。
 - ・その題材が訴える人間の温かさや生活を豊かにする生き方を感じて、すごく好きな授業だった。
- 自分と向き合うことができる
 - ・自分と向き合う時間だということの印象がとても大きい。記録を後で振り返るのが好きだった。
 - ・道徳の時間は、子どもが一番自分らしくしていただける授業なのではないかと思った。
- 議論をすることが面白かった
 - ・教材についてみんなで議論していた。良いだけでなく悪い意見も出るので、ヒートアップもした。
 - ・賛成、反対が出て、友達の意見も分かって楽しかった。ディスカッションが面白かった。
 - ・班に分かれて討論やプレゼンをすることが多く有意義だった。授業一つ一つに印象深い言葉が残った。
- 様々な人のことを考える特別な授業だった
 - ・様々な立場に立って考える授業は面白かった。ロールプレイなどがあり特別な授業の気がしていた。
 - ・自分の考えを自由に述べられるので好きだった。いろいろ考えられるので算数などより楽しかった。
 - ・特別な授業という印象だった。命について考えたりして、受け身でなく「考える」授業だった。
 - ・自分とは違う時代や性別や年齢の人物について考えるのが楽しかった。 ほか

■ 受けたときのマイナス印象など

- ▽ 先生の答えに引きずられる感じがした
 - ・先生のまとめをなるほどと思って聞いたが、用意した答えの方向に導かれていただけのようだった。
 - ・小1の授業参観のとき自信をもって答えたのが教師が用意していなかった誤答だったらしく、すごく焦った様子で対応された。それ以来、「道徳は一般的な正解を回答をするもの」と感じるようになった。
 - ・「道徳には正しい答えがない」と先生が言っているのに、答えが否定されたことが悲しく、傷ついた。
 - ・たくさん考えや答えがあるのに、全体で1つの考えにまとめようとする傾向の強い授業だった。
 - ・子どもの頃は真っ白だから先生の意見を疑問をもたず受け入れていた。とてもこわいことだと感じた。
- ▽ 正解のようなものが見えていた
 - ・「こう書くべき」みたいなのがあって、自分の考えを押しつぶしていた気がする。
 - ・先生の考えと違うと「ふーん、次」という感じで返された。道徳ははっきり正解のある授業だと思った。
 - ・モラルや思いやりのある答えが「正解」になるため、いつも「正解」が見えてつまらなかった。
- ▽ 答えがはっきりわからなかった
 - ・結論が出ず「どの意見もいい意見だね」で終わるから、道徳はつまらないと感じた。
 - ・正解がないので難しく、好きではなかった。 ・賛否が解決することはないので嫌だった。
- ▽ 当たり前のことを言っている感じがした
 - ・常識で考えられることや、既に知っていることがほとんどなので、やる気が落ちていった。
 - ・「あたりまえのことしか言っていないのに…」と思いながら授業を受けていた。
- ▽ そのほか
 - ・子どももいろいろ情報をもっているのだから、正直なところ、時代遅れだと思っていた。 ほか

資料 2

東京学芸大学で進める「総合的道德教育プログラム」

【道德教育の充実と発信のための本プログラムのホームページ】



【開発教材例（一部）】

自然の生命を感じる教材



思春期の映像教材



命の誕生と成長の教材



【本プログラムで行った主な調査】

- 「大学・短大における教職科目（道德の指導法）に関する調査・結果報告書」
全国の大学・短大における教職課程科目「道德の指導法」の実施状況・授業形式の実態・工夫・課題等についての調査
- 「道德教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査・結果報告書」
道德の時間の取組の状況や考え方の傾向についての調査
全国の一般の小・中学校及び研究指定校の経験をもつ小・中学校の教師を対象とした
- 「成人の道德性と子どもの頃の体験に関する調査報告書」
全国の一般成人を対象とし、子供時代の体験の傾向や道德に対する意識、道德への考え方を把握することを目的とした

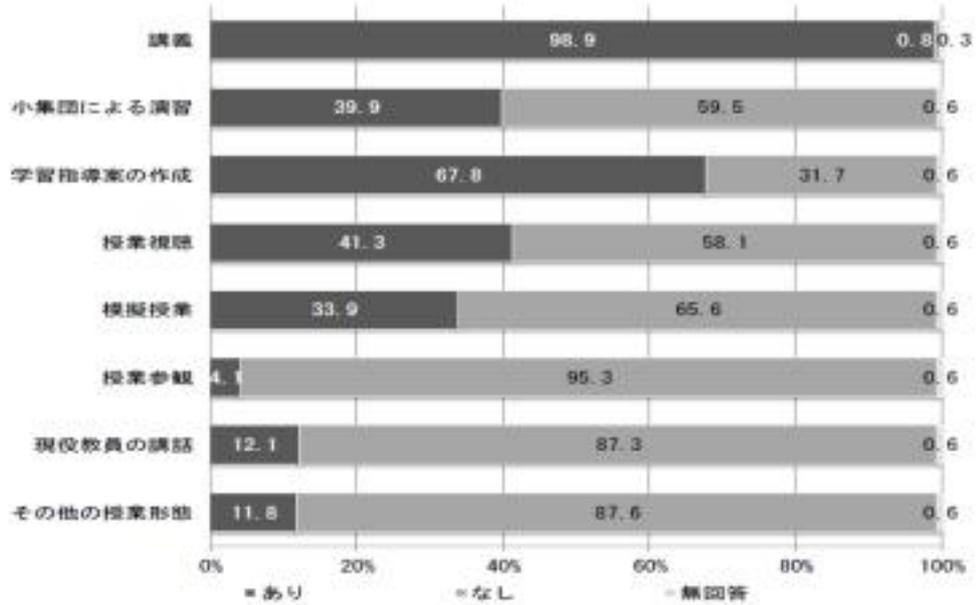
【大学の授業用資料集】



「道徳の指導法」について（本学の調査より）

●「大学・短大における教職科目（道徳の指導法）に関する調査・結果報告書」
東京学芸大学（平成22.5）による

■ 授業の実施形態……問：授業の実施に際して、含まれる形式のすべてに○をつけてください。



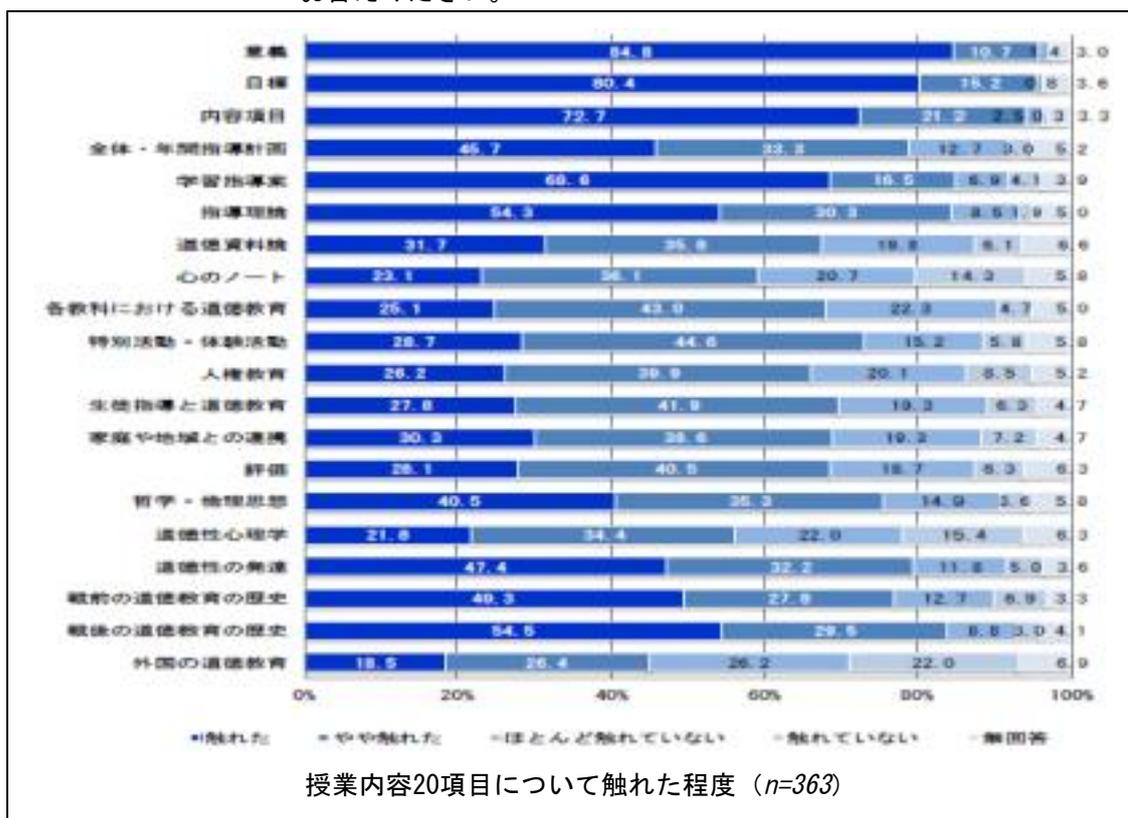
各授業形態の実施の有無（ $n=363$ ）

■ 課題に感じること…問：授業を実施する上での課題はありますか。

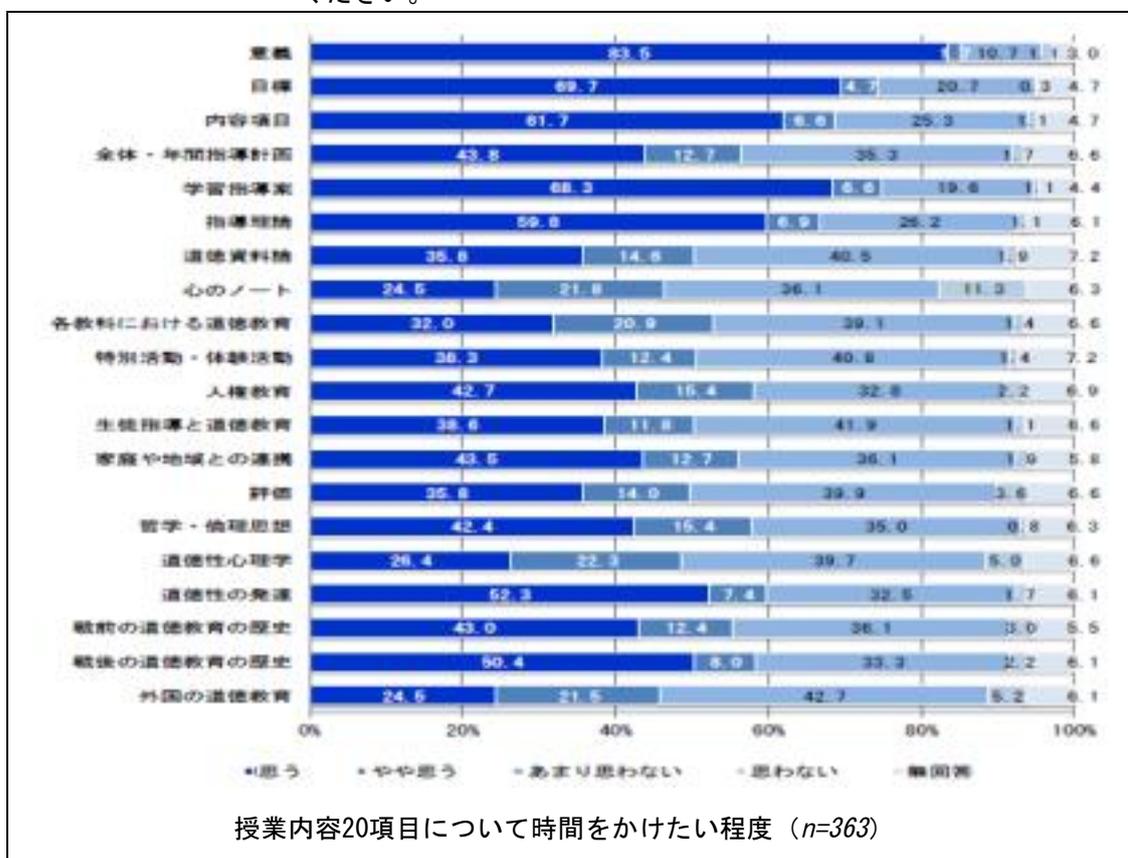
カテゴリー	含まれる内容
講義規模	・受講者数が多い ・グループディスカッションなどができにくい
授業時間数	・時間数が少ない ・通年4単位
教員の考え	・道徳に関する考え(前問と類似) ・授業に取り組む構え ・理論と実践 ・内容のバランス
学生の意欲・態度	・意欲、モチベーションを高める ・関心の低さ ・関心のずれ ・授業参加の姿勢
経験の不十分さ	・道徳授業を受けた経験の少なさ ・学生の道徳授業の記憶の薄さ ・学校現場の指導力
学生の能力	・理解力 ・基礎知識の不足
授業運営	・シラバスの記載 ・他教科との連携 ・教員養成のシステム ・役割分担 ・実施時期 ・教育実習との関係
授業の教材	・教材や資料の不足
現場との連携	・時間的に現場の見学ができない ・教員を講話に招へいするのが困難 ・実際の授業参観が困難
授業構成・内容と方法	・模擬授業、学習指導案、ディスカッション ・資料(教材)研究
社会的背景や行政	・現代社会の課題 ・教育行政の問題 ・価値観の多様化

（自由記述の整理によるカテゴリー）

■ 講義で触れた内容……問：授業中に触れた内容がありましたら、時間をかけたと思う程度をお答えください。



■ 時間をかけたい内容…問：今後、授業を実施する場合、時間をかけたいと思う程度をお答えください。



資料 4

教職科目「道徳の指導法（道徳教育の研究）」の考え方と計画

大学生が教員免許をとるためには、大学の教職課程において、「教育職員免許法」に示された「教職に関する科目」を学ぶ。この中に示す「教育課程及び指導法に関する科目」に、「各教科の指導法」などと並んで「道徳の指導法」が位置付けられている。この「道徳の指導法」（本学では「道徳教育の研究」と呼ぶ）について、「教育職員免許法・施行規則」に次のように規定されている。

道徳の指導法の単位の修得方法は、小学校又は中学校の教諭の専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあっては二単位以上を、小学校又は中学校の教諭の二種免許状の授与を受ける場合にあっては一単位以上を修得するものとする。

このことから、教職課程をもつ多くの大学で半期（半年・2単位）の通常15回にわたる授業が置かれている。

本学の教職科目「道徳の指導法（道徳教育の研究）」では、次のような点を考慮して授業計画（シラバス）を作成するようにしている。

- 方針などの共通化……複数の教員が6教室の「道徳教育の研究」の授業を担当している。そこで各授業が同様の方針や視点で進めることができるように、特に、目標・内容・評価の方法などを共通させるようにしている。
- 学校種ごとの違い……小学校教員免許対象と、中学校教員免許対象の授業のそれぞれの授業計画（シラバス）において、特色が出るようにしている。
- 授業内容の柱立て……授業の内容については、大きくいくつかを柱立てしていずれの授業でも取り上げるようにし、対象学生の実態や授業の時期などによって弾力的な扱いも可能となるようにしている。

[授業計画の概要（小学校の場合）]

科目名	道徳教育の研究	対象学年	2年生
単位数	2 前期(春学期)・後期(秋学期)	受講対象	(略)
ねらいと目標	小学校における道徳教育の意義・目標・内容や課題について、児童期の特性や幼児教育及び中等教育との関連で理解するとともに、現代の道徳教育の基礎となる価値、道徳性の諸概念、歴史や社会とのかかわりなどを検討する。さらにそれを踏まえ、道徳教育の要としての道徳の時間の目標や特質、小学校授業の計画作成、指導方法について具体的に理解することを目指す。		
内容	本講義では、①道徳教育の基礎的な考え方、②学習指導要領における道徳教育、③道徳教育にかかわる諸領域、④道徳教育の歴史と現状、⑤道徳の時間の理論、⑥道徳の時間の実践、という大きな6つの柱を想定して各授業テーマを設定し、②⑤⑥については小学校における指導を想定した講義を行う。		
テキスト・参考文献	『教職資料・新しい道徳教育<改訂版>』（東京学芸大学）， 小学校学習指導要領、『小学校学習指導要領解説・道徳編』，○○○○○○○		
成績評価の方法	学期末の筆記試験もしくはレポート作成、学習指導案作成及び通常の授業での小レポートや出席状況を考慮して総合的に評価する。		
授業スケジュール（概要）	※ 以下の内容について15回に分けて実施する。 ○ はじめに—道徳教育の基礎 ○ 小学校学習指導要領と道徳教育（その意義、目標、内容） ○ 道徳教育とその諸領域（思想、科学、諸課題などのかかわり） ○ 道徳教育の歴史と現状（その経緯や外国の現状などを通して） ○ 道徳の時間の指導理論（小学校における道徳の時間の指導についての基礎的な理解を通して） ○ 小学校道徳の時間の実践（学習指導案作成と指導方法の検討、小学校教師に学ぶ機会などを通して） ○ ま と め—これからの道徳教育		

参考 本学における「**道徳の指導法（道徳教育の研究）**」の15回分の実際例

回	内 容	授業のテーマ（学習の概要）	重要 だ	興 味	役立 つ
1	はじめに — 道徳教育の基礎	○子どもの心の成長と道徳教育の意義 ・子どもの心の成長と学力、体力とのかかわり ・ルール、マナー、モラルの問題 など	1	7	11
2	小学校学習指導要領と道徳教育①	○新しい学習指導要領と道徳教育・道徳の時間 ・道徳教育の目標、道徳の時間の目標とその関係 ・新しい学習指導要領のポイント など	4	14	8
3	小学校学習指導要領と道徳教育②	○新しい学習指導要領と道徳で教える内容 ・道徳の時間で教える内容項目、その数と全体の構成（並び方や相互の関連） など	7	11	9
4	道徳教育とその諸領域①	○様々な教育課題と道徳教育 ・今、求められる教育課題（情報教育、環境教育、キャリア教育、食育など）と道徳との関係 など	5	3	10
5	道徳教育とその諸領域②	○発達の視点に立って道徳教育を考える ・思想家や心理学者が提唱する道徳性の発達の概観 ・「ハイイツのジレンマ」 など	12	2	12
6	道徳教育の歴史と現状①	○道徳教育の歴史を概観する ・明治から戦前、戦後の道徳教育の歴史 ・道徳の時間の特設の趣旨と修身科との違い など	10	5	13
7	道徳教育の歴史と現状②	○海外の道徳教育から我が国の特色を考える ・アメリカの教育改革の概要 ・イギリスや韓国などで進める道徳教育 など	14	1	14
8	道徳の時間の指導理論①	○道徳教育の計画と多様な道徳資料 ・道徳教育での計画作成の考え方 ・道徳の資料（道徳副読本、絵本など）について	8	8	7
9	道徳の時間の指導理論②	○道徳の時間における授業の在り方 ・道徳の時間の基本方針、「こんな授業でありたい」 ・道徳の授業づくりのポイント など	3	11	4
10	小学校道徳の時間の実践①	○小学校道徳学習指導案の作成 ・道徳の学習指導案の内容、教科の学習指導案との違い ・学習指導案を作る手順 など	10	13	1
11	小学校道徳の時間の実践②	○道徳の時間における指導方法・指導技術 ・実際の授業の一部視聴 資料提示 ・発問、話し合い、表現活動、ノート、板書などの工夫	6	9	2
12	小学校道徳の時間の実践③	○道徳授業の実際の様子（映像）等に学ぶ ・低学年の授業と中学年の授業（各一部）を見て学ぶ ・授業の実際から描く学習指導案のイメージ など	13	5	5
13	小学校道徳の時間の実践④	○学習指導案を生かした指導の実際 ・作成した4資料の学習指導案ごとの学生どうしの交流 ・実際の授業での着眼点や改善のポイント など	8	10	3
14	小学校道徳の時間の実践⑤	○道徳の時間と学級経営・生徒指導 ・学級経営（日常生活、環境作り）や生徒指導（いじめ、人間関係と道徳との関係） など	2	4	6
15	まとめ — これからの道徳教育	○道徳教育の評価とこれから ・道徳の評価の在り方、道徳性の評価の特色 ・まとめ			

※以上は、平成24年度・後期（秋学期）のあるクラスの授業で実施した内容。

右橋の3枠は、第15回の最初に学生に「重要な内容だ」「特に興味がある」「役立つ内容だ」の3項目について各7つ以内選択してもらった結果によるそれぞれの重要度、興味の強さ、役立ち度の順位。

資料5

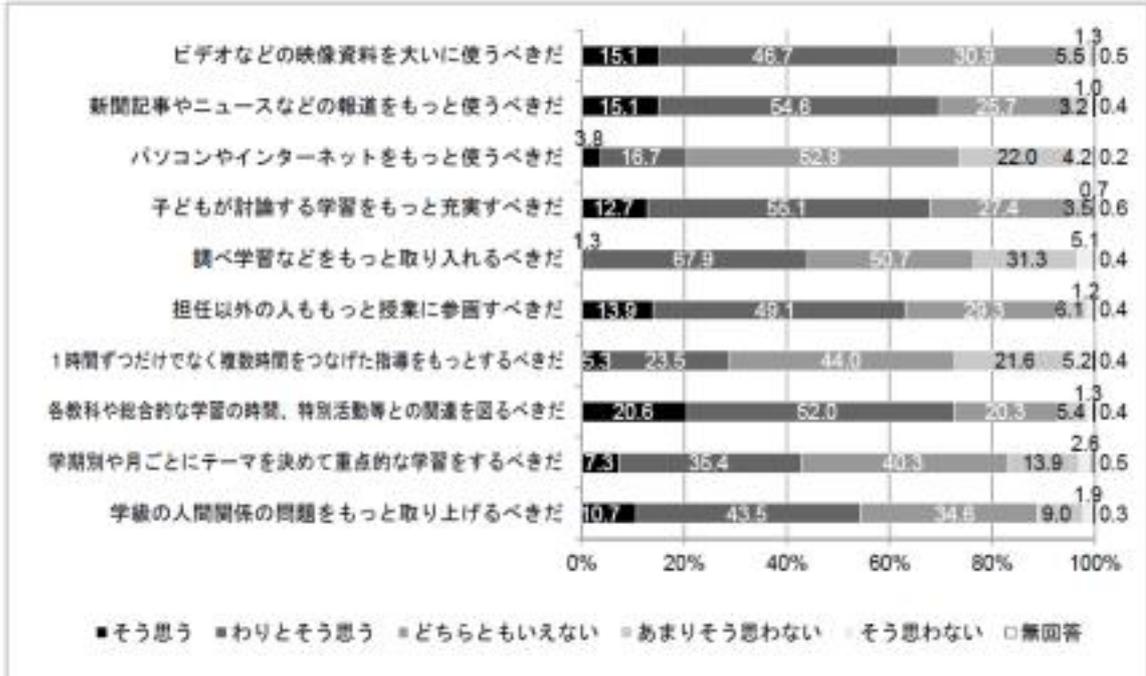
道徳の時間の充実に対する考え

●「道徳教育に関する小・中が校の教員を対象とした調査—道徳の時間への取組を中心として—結果報告書」東京学芸大学（平成24.2）による

【問】道徳の時間の充実にかかわって、次のことについてどのように考えますか。
あてはまるものを1つずつ選んでください。

■ 道徳の時間の充実に対する考え・小学校

[一般校の教師：n=1360]



■ 道徳の時間の充実に対する考え・中学校

[一般校の教師：n=1262]

